

岡山県 保健医療圏

資料2



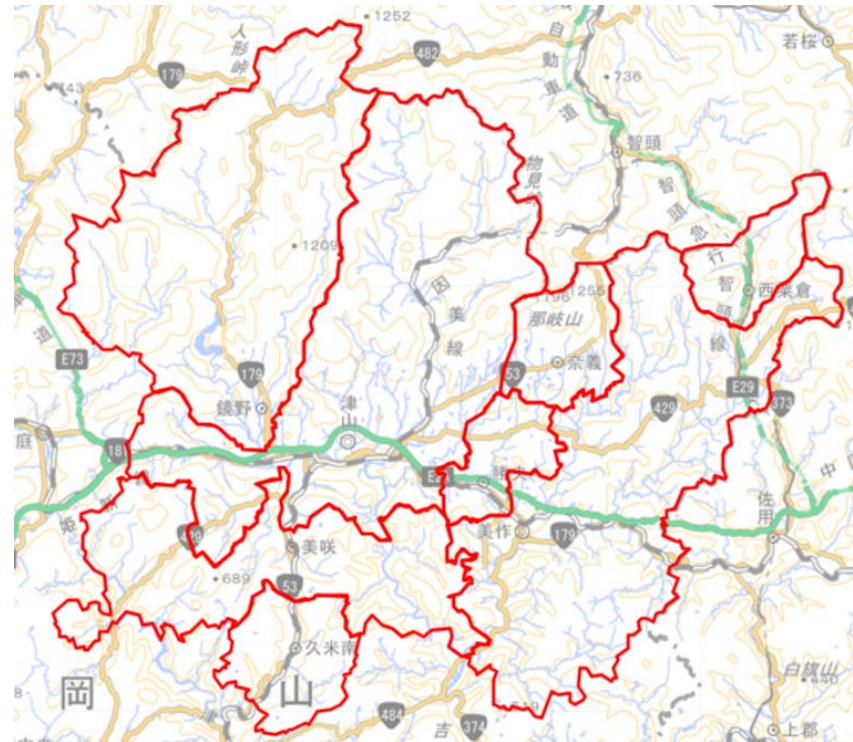
津山・英田保健医療圏の概要



JMAP 地域医療情報システム
Japan Medical Analysis Platform

面積		1,847.66km ²
国勢調査 人口	(2015年)	182,412人
	(2020年)	173,385人
人口増減率 (2015~2020年)		-4.95%
	(※)	-0.75%
高齢化率 (65歳以上・2020年)		34.30%
	(※)	28.00%
人口密度 (2020年)		93.80人/km ²
	(※)	338.20人/km ²

(※) 比較地域：全国平均



- 圧倒的な“従事者”の不足
- 人口や資源が疎になるエリアへの保健医療福祉の提供

津山・英田保健医療圏 人口ピラミッドの変化(2020-2040年)

2020年から2040年にかけて、当該医療圏の人口は**約35,000人減少**する。
人口構成だけで考えると、**減少分は65歳未満**の人口である。

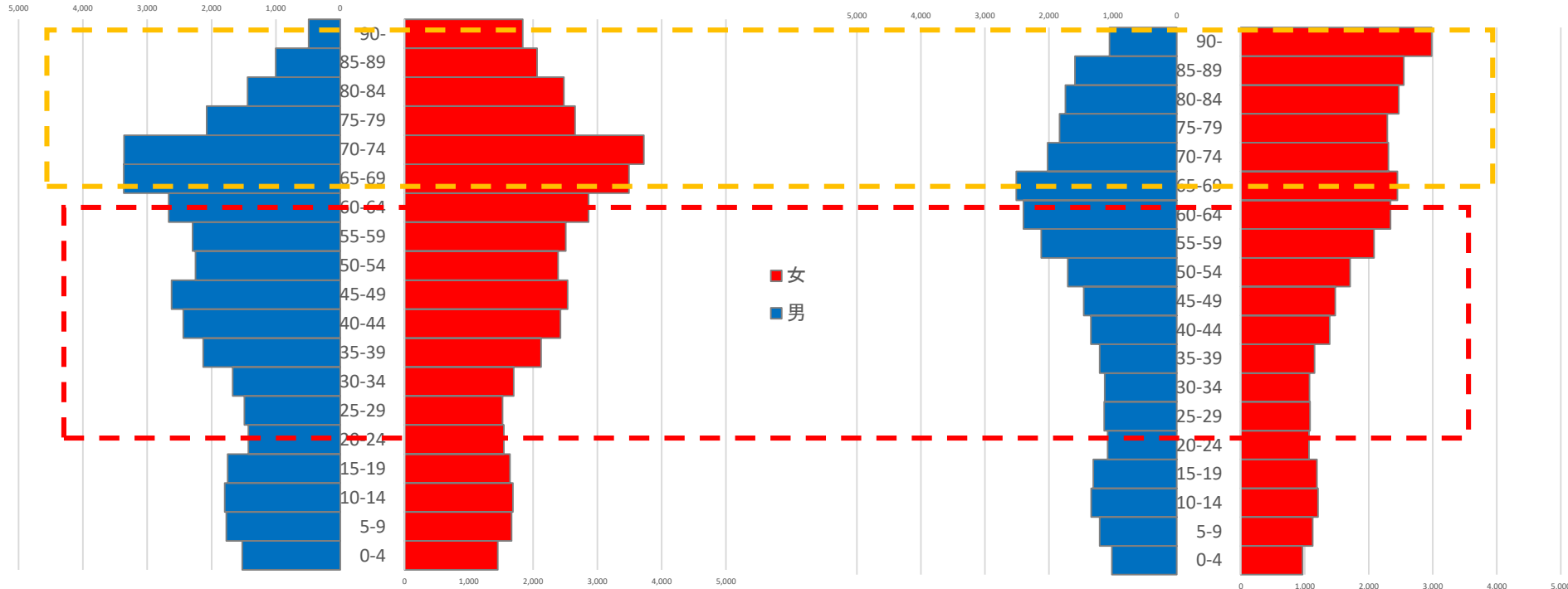
173,385人※1

約20%減

138,658人※2

33岡山県 3305津山・英田 2020年

33岡山県 3305津山・英田 2040年



※1・・2020国勢調査

※2・・将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所)

地域別人口変化分析ツール All Japan Areal Population-change Analyses(AJAPA)

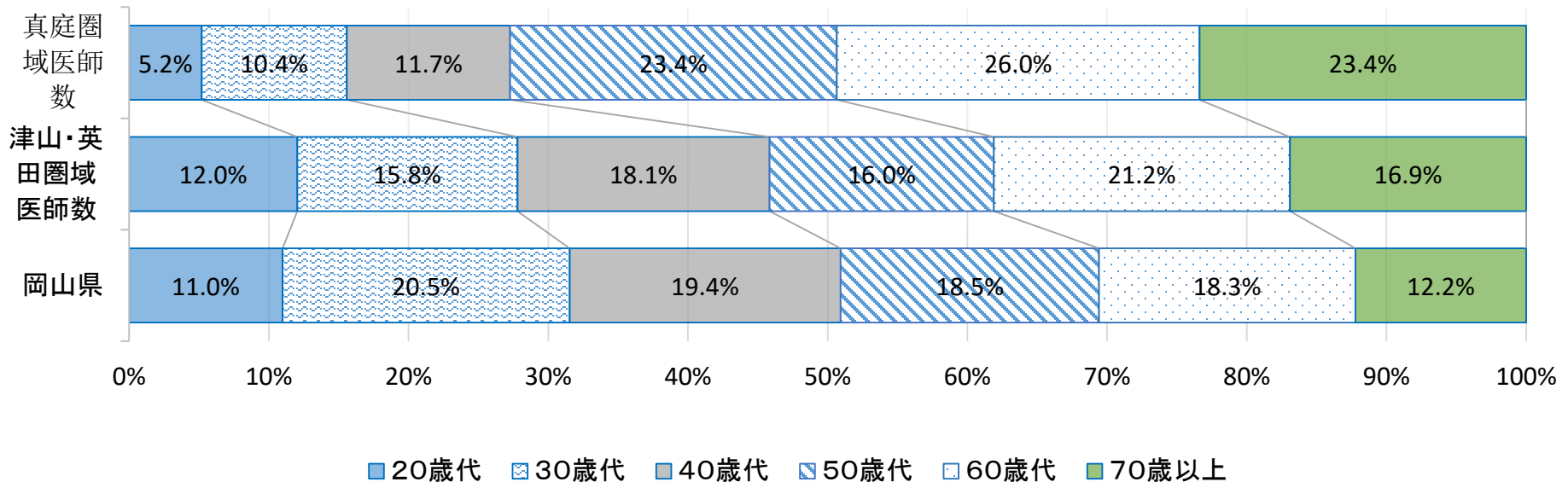
産業医科大学HP:<https://sites.google.com/site/pmchuoeh/files/chv-1>

医療施設の従事者医師の年齢構成（R2年12月末現在）

(単位:人)

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計
真庭圏域医師数	4	8	9	18	20	18	77
津山・英田圏域医師数	42	55	63	56	74	59	349
岡山県	664	1,242	1,173	1,118	1,109	739	6,045

医療施設の従事者医師の世代別構成



在宅当番医（1次救急）に関する医師会への調査結果(R4.1.26現在)

1. 休日当番を担当する会員の診療所・病院別所属について

医師会名	津山市	苫田郡	久米郡	美作市	勝田郡
診療所	27	7	6	6	7
病院	3	13	1	2	2
計(名)	30	20	7	8	9

参考 参加施設 30 9 5 9 9

2. 休日当番を担当する会員の年齢構成について

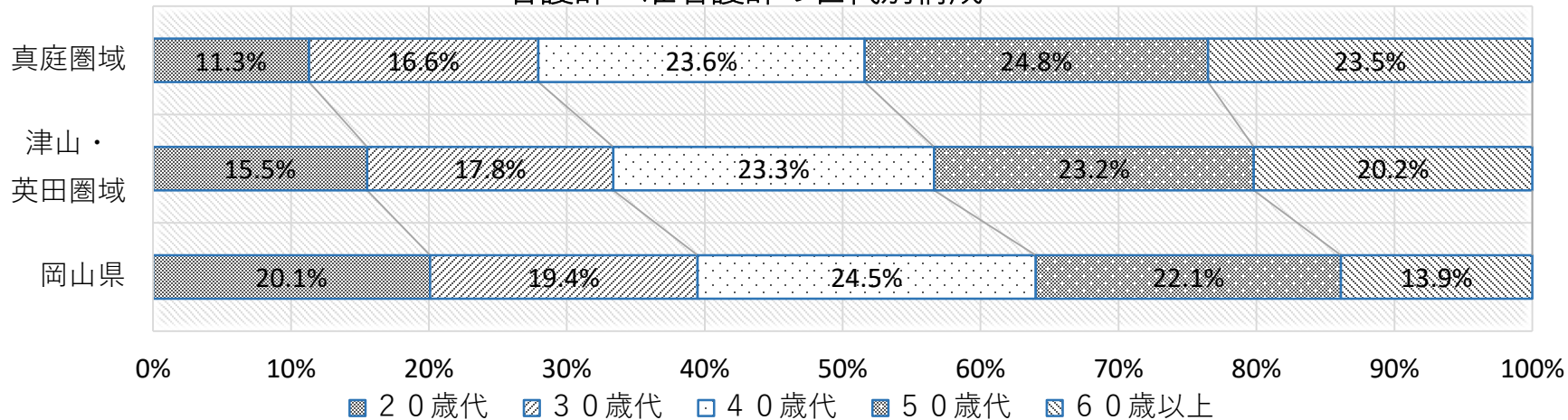
年齢	津山市		苫田郡		久米郡		美作市		勝田郡	
	診療所	病院	診療所	病院	診療所	病院	診療所	病院	診療所	病院
25-29歳										
30-34歳				2	1					1
35-39歳	1			1						
40-44歳	1	1		1	1					
45-49歳	3		1		1	1		1		
50-54歳	1							1		
55-59歳	3	1		2						1
60-64歳	5	1		4			3		1	
65-69歳	8		3	1	2		2		3	
70-74歳	2			2	1				3	
75-79歳	3		2							
80-84歳			1				1			
85-89歳										
90-94歳										
95-99歳										
100歳以上										
合計	27	3	7	13	6	1	6	2	7	2
平均年齢	61.6	52.3	68.7	55.2	54.5	45	66.8	51.5	69	46

就業看護師・准看護師の年齢構成（R2年12月末現在）

（単位：人）

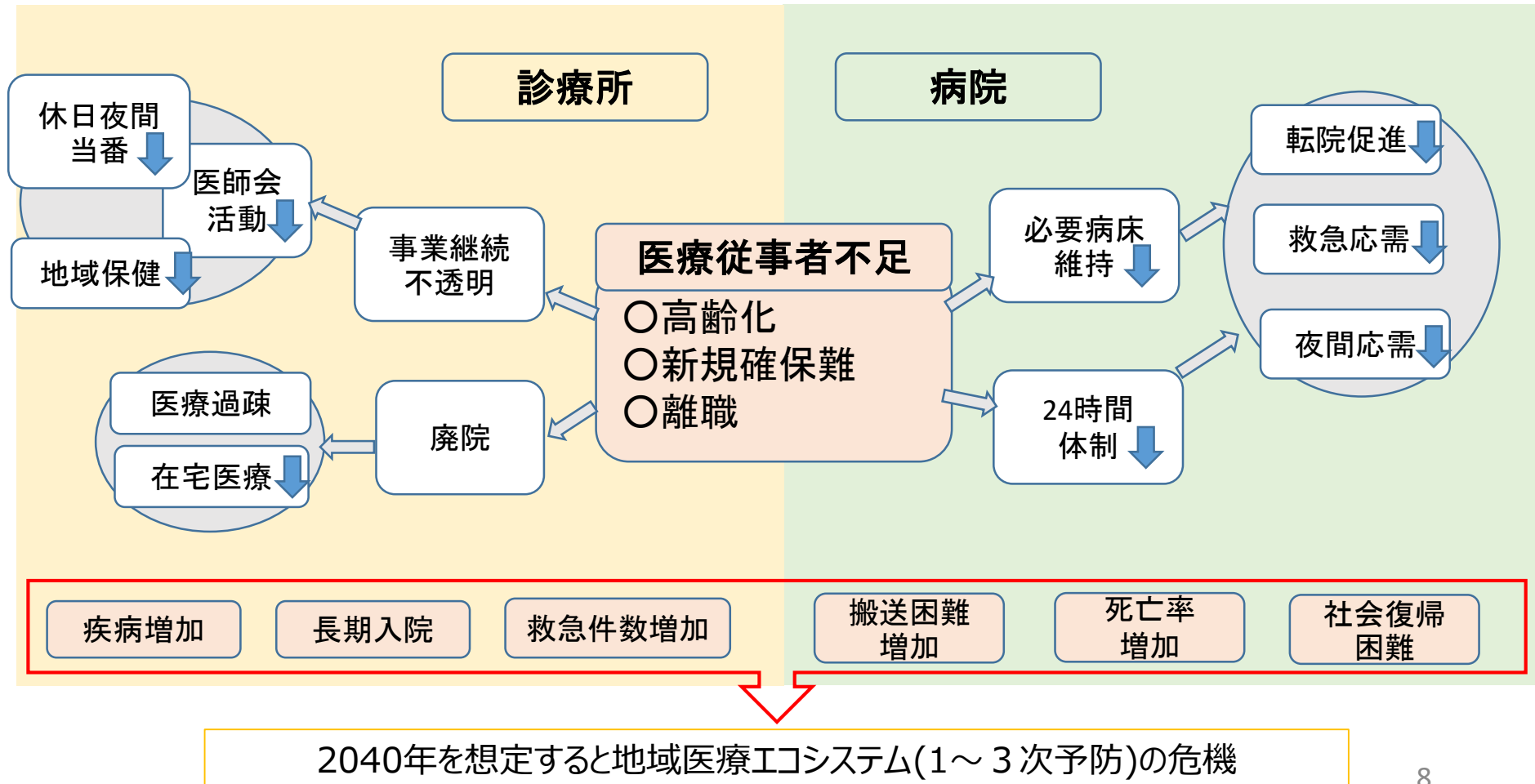
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	計
真庭圏域	74	109	155	163	154	656
看護師	72	103	135	142	112	564
准看護師	2	6	20	22	42	92
津山・英田圏域	384	441	575	573	499	2,472
看護師	375	415	491	459	311	2,051
准看護師	9	26	84	114	188	421
岡山県	5,700	5,511	6,959	6,285	3,936	28,391

看護師・准看護師の世代別構成



地域医療構想を踏まえた2025年に向けた対応方針 各医療機関から提起された課題について

- ほぼすべての医療機関に共通して、“医療従事者不足”という課題がある。
- 一次救急(在宅当番)・二次救急(救急輪番)の維持が困難になっている。
- 医療機関が廃院すれば、地域包括ケアシステムの空白地域が出てくる恐れがある。

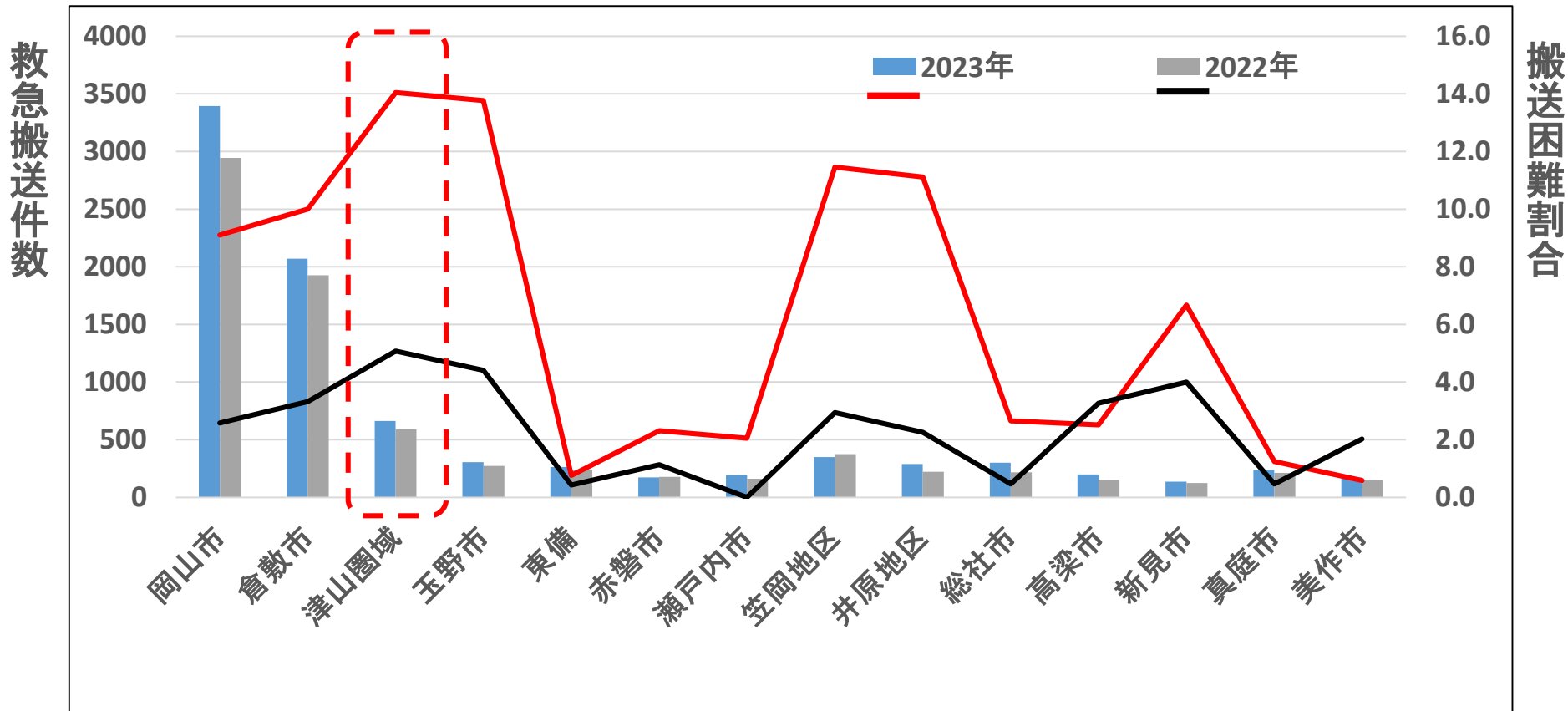


- 圧倒的な“従事者”の不足
- リソースが疎になるエリアへの保健医療福祉の提供

コロナ禍で浮き彫りになった課題 救急搬送困難件数の増加

- コロナ禍では、普段からの医療福祉の課題が浮き彫りとなった。
- 当該圏域では、特に医療ひっ迫の際に搬送困難が増加する傾向が明らかになった。

【2023年1月における各消防本部別年度別救急搬送件数と搬送困難割合】



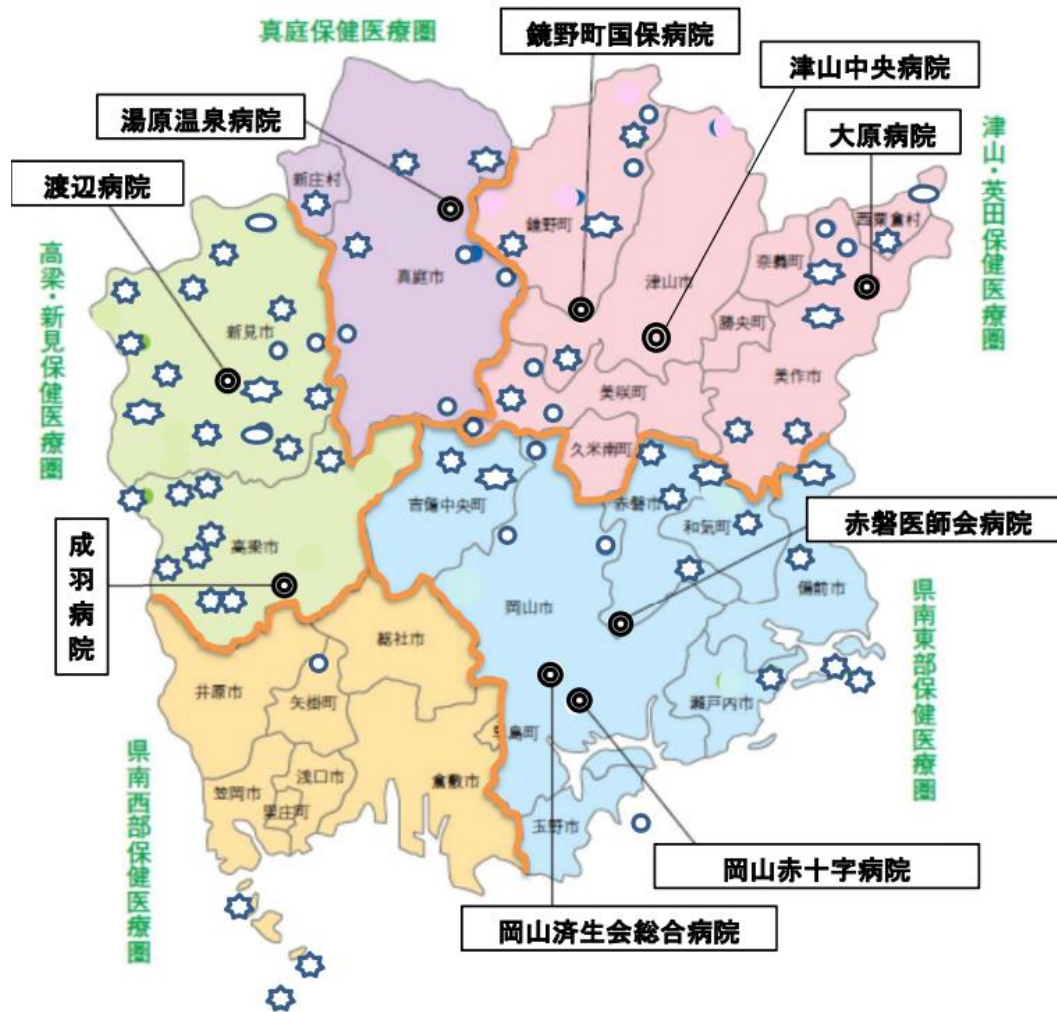
救急搬送 収容所要時間(最新があれば更新予定)

5-7 収容所要時間別搬送人員(令和3年中)

団体名	10分未満		10分以上20分未満		20分以上30分未満		30分以上60分未満		60分以上120分未満		120分以上		計	収容平均所要時間(分)
		%		%		%		%		%		%		
岡山市消防局			605	2.1%	8,644	30.2%	18,217	63.6%	1,156	4.0%	23	0.1%	28,645	35.7
倉敷市消防局			502	2.5%	5,106	25.1%	13,742	67.6%	955	4.7%	18	0.1%	20,323	37.1
津山圏域消防組合			92	1.4%	1,160	17.2%	4,552	67.4%	928	13.7%	26	0.4%	6,758	43.5
玉野市消防本部			14	0.5%	304	10.6%	2,185	76.4%	351	12.3%	6	0.2%	2,860	45.0
笠岡地区消防組合			16	0.4%	332	9.1%	2,390	65.4%	893	24.5%	21	0.6%	3,652	50.1
井原地区消防組合	1	0.0%	47	1.8%	450	17.2%	1,632	62.2%	475	18.1%	17	0.6%	2,622	45.2
総社市消防本部	3	0.1%	74	2.9%	713	27.8%	1,688	65.9%	81	3.2%	2	0.1%	2,561	35.8
高梁市消防本部			30	1.7%	277	15.7%	867	49.1%	579	32.8%	13	0.7%	1,766	51.9
新見市消防本部			16	1.1%	218	15.1%	761	52.7%	433	30.0%	16	1.1%	1,444	52.8
東備消防組合			66	2.7%	434	17.9%	1,511	62.2%	411	16.9%	8	0.3%	2,430	45.3
真庭市消防本部	1	0.0%	70	3.2%	509	22.9%	1,308	58.9%	323	14.5%	9	0.4%	2,220	42.3
美作市消防本部	1	0.1%	19	1.2%	212	13.7%	984	63.4%	323	20.8%	12	0.8%	1,551	48.1
赤磐市消防本部			12	0.7%	281	16.6%	1,224	72.4%	173	10.2%	1	0.1%	1,691	41.9
瀬戸内市消防本部	1	0.1%	30	1.7%	304	17.3%	1,292	73.4%	134	7.6%			1,761	40.9
計	7	0.0%	1,593	2.0%	18,944	23.6%	52,353	65.2%	7,215	9.0%	172	0.2%	80,284	39.6
2年	6	0.0%	1,943	2.5%	20,852	26.9%	48,457	62.6%	6,074	7.8%	133	0.2%	77,465	38.2
元年	11	0.0%	2,924	3.4%	25,597	29.5%	52,008	59.9%	6,110	7.0%	141	0.2%	86,791	37.2
30年	6	0.0%	3,100	3.5%	26,561	30.1%	52,248	59.1%	6,235	7.1%	189	0.2%	88,339	37.2
29年	18	0.0%	2,773	3.3%	24,654	29.3%	50,415	60.0%	6,038	7.2%	118	0.1%	84,016	37.3
28年	17	0.0%	2,715	3.3%	22,449	27.4%	50,860	62.0%	5,814	7.1%	120	0.1%	81,975	37.7

へき地保健医療対策現況図

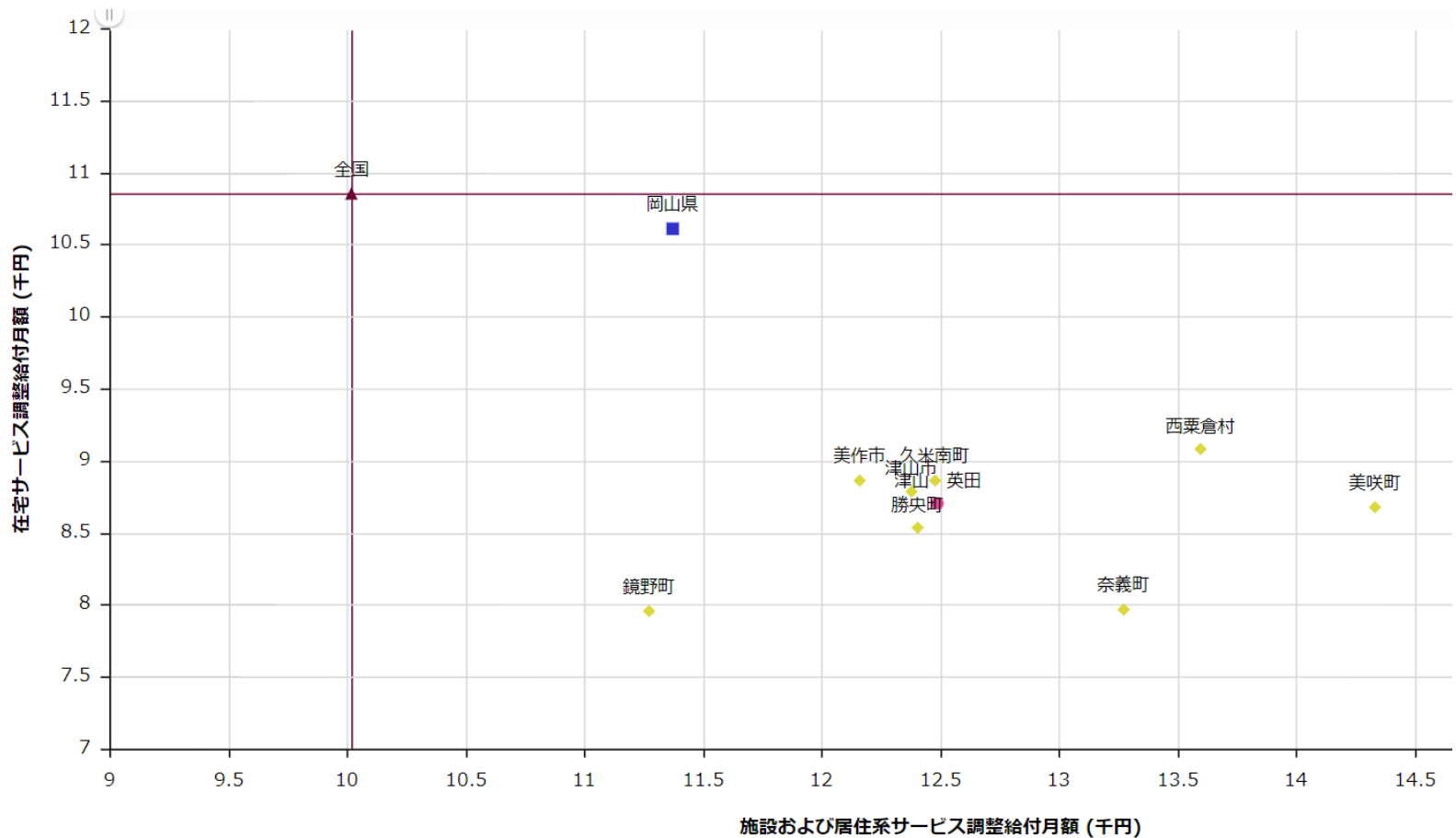
(令和6年4月1日現在)



	県南東部	県南西部	高梁・新見	真庭	津山・英田	計
へき地医療拠点病院	3	—	2	1	3	9
へき地診療所	12	3	20	4	10	49
無医地区	4	1	4	4	8	21

津山英田圏域 在宅 対 施設及び居住系サービス 性年齢調整済 第一号被保険者一人あたりの給付月額

津山・英田圏域の市町村において、
全国平均と比較して、施設・居住系サービスへの偏りの傾向がみられる。

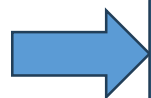


(時点) 令和元年(2019年)

(出典) 「介護保険総合データベース」および総務省「住民基本台帳人口・世帯数」

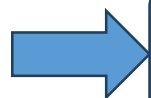
2040年に向けた医療福祉の課題

●圧倒的な“従事者”の不足



- 医療従事者として多数を占める看護職をいかに確保するか
- 医師・看護師以外の職種や専門職種をいかに確保するか

●人口や資源が疎になるエリアへの保健医療福祉の提供



- 面として医療を提供できる病院へいかにリソースを配分するか
- 移動が難しい高齢者へいかに保健医療福祉サービスをとどけるか

保健医療福祉領域だけでは解決できない課題について、市町村、関係団体、他分野と連携して解決の方策をさぐる